

FreeStyle リブレで得られた血糖変動パターンを多職種と共有し患者指導に生かす試み

◎深水 由美¹⁾、上薮 由美¹⁾、氏川 かおり¹⁾、牛嶋 奈々¹⁾、堤 厚之²⁾、本島 寛之³⁾、山口 康平²⁾
医療法人 回生会 堤病院¹⁾、医療法人 回生会 堤病院 内科²⁾、熊本大学大学院生命科学研究部 代謝内科³⁾

【目的】

FreeStyle リブレ(以下、リブレ)の使用は、糖尿病を理解したチーム医療下で行うことでより効果的になる。リブレ導入にあたり、医師・検査技師・看護師・薬剤師がお互いに協力し、情報を共有することで患者指導に生かせるか検討した。

【運用方法】

リブレ導入において、患者選出・導入前デバイス説明・センサー装着指導・SMBG指導・AGPレポート作成、解析・発注、在庫管理・AGPレポートを用いた患者指導など多職種が分担して運用している。

【対象】

当院通院中の糖尿病患者(1型：男0名・女7名、平均年齢46.6歳、平均罹病期間25.9年、2型：男7名・女3名、平均年齢64.1歳、平均罹病期間18.2年)

【方法】

- ①リブレ導入後アンケートを実施し使用感を評価
- ②血糖パターンによる食事・運動・薬剤療法へのフィー

ドバック

③HbA1c値や24時間にわたる血糖コントロールの安定化評価

【結果】

リブレを使用した患者の使用感は、「リアルタイムで画面のトレンド矢印により血糖変動傾向が把握でき低血糖の対応が素早くできるようになった」など日常生活において利便性が高いと評価された。さらに患者自身が確認した血糖パターンを基に、医療者が食事・運動・薬剤療法に介入し、より効果的なマネジメントができるようになった。AGPレポートにより患者自身が血糖パターンをみることでより意識改革ができ、質の高い安定した血糖コントロールが得られるようになった。

【考察】

リブレ導入にあたり、患者の満足度は大きく、治療に対して積極的になった。多職種がお互いに協力し、情報を共有することで患者指導に生かすことができた。また医療者の満足度も向上した。 連絡先 0966-22-0200